在宅生活支援技術	2年・後期	1単位	教授 石原 美由紀
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310862

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅看護における援助方法を行なうために必要な情報収集、アセスメント、援助方法などの視点を理解し、在宅療養者における看護の基本的技術について学ぶ。在宅の場での日常生活の援助方法と医療処置を受けながら療養する人々の看護方法について、基本的な知識、技術を習得する。

2. 到達目標

1. 在宅療養者・家族へのアプローチについて理解する。
2. 在宅看護に必要な情報収集、アセスメント、援助方法の視点を理解する。
3. 在宅看護における日常生活援助について理解する。
4. 在宅看護における医療的管理について理解する。
5. 在宅療養が安全・安楽に行なわれるための在宅看護の援助について理解する。

3. 授業の進め方

講義を中心に進めるが、視聴覚教材、グループワーク、演習を取り入れ、実習につながる授業を行う。

4. 授業計画

1. 在宅看護の対象と在宅看護過程	8. 在宅における医療技術⑥ (インスリン自己注射と血糖自己測定)
2. 在宅におけるヘルスアセスメント	9. 在宅における医療技術⑦ (褥瘡の予防とケア)
3. 在宅における医療技術① (在宅中心静脈栄養法・経腸栄養法)	10. 在宅における医療技術⑧ (服薬管理・薬物管理)
4. 在宅における医療技術② (吸引・在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法)	11. 在宅における日常生活援助① (清潔と衣生活・食事)
5. 在宅における医療技術③ (演習:在宅酸素療法)	12. 在宅における日常生活援助② (排泄・活動と休息)
6. 在宅における医療技術④ (演習:在宅人工呼吸療法)	13. 在宅における日常生活援助③ (在宅リハビリテーションと住まい・生活環境)
7. 在宅における医療技術⑤ (尿導留置カテーテル・ストーマ)	14. 終末期ケア・死後のケア・グリーフケア
	15. 在宅看護におけるリスクマネジメント

5. 成績評価の方法・基準

定期試験 70%、課題レポート 20%、平常点 10%基に総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：正野逸子・本田彰子（2019）：看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術
メヂカルフレンド社

臺有桂・石田千絵・山下瑠理子（2019）：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支えるケア メディカ出版

押川真喜子（2019）：写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について最低1時間以上の予習及び授業内容について1時間以上の復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

在宅看護学実習の先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

提出された課題は教員が内容をチェックして返却する。内容が不備なものは再提出を求める。試験の結果と模範解答は後日掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。